

特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議(第2回)
(コメントメモ提出)

11月25日会議に用務のため出席できませんので、申し訳ありませんが感想的コメントを提出させていただきます。

会議資料「特別支援教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方に係る主な検討事項」「特別支援学校教諭免許状及びその教職課程コアカリキュラムの在り方」について

- ご承知のこととは存じますが、現在、中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会」が作動中であり、そこで教員の資質能力の構造化、再定義が論議されています。資質能力の重要な観点として、「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」に関するものがあがり、いずれそちらの「能力記述」との整合性をはかる必要があると思います。
- また基礎免となる幼小中教員免許のための教職課程科目も、令和3年版コアカリの記述を含めて見直しが見られる可能性もあるので、目配りしておく必要があります。
- ◎ 上記特別部会11月15日の会議でも話題になったことですが、教員の養成・研修を考える基本には、「主体的に学び続ける教員像」が求められています。今回検討される特別支援学校教員養成のコアカリでも、「押しつけ」「型はめ」的な(言葉が不適切かもしれませんが)教授内容を列挙するのではなく、将来教員となったときに自ら学び研修し、自己成長を遂げる教員を養成するというメッセージが出せればよいかなと考えます。例えば、第一欄科目の「全体目標」の中に特別支援教育を担う教員としての姿勢を形成確立する「ねらい」が書き込めないでしょうか。
- ◎ 今回いただいた会議資料については、「主な検討事項を」をよく整理していただいております、ここに示されている方向で検討をすすめていくことに賛同します。

① 自立活動

第一欄科目で自立活動の概要、とりわけ制度的側面を必修扱いにすること、第二欄科目で領域特性に対応した実際の内容を扱うことは妥当だと思います。第一欄科目の内容が理念・歴史・思想、社会的制度的経営的事項と広範囲になるのはやや心配ですが、特別支援教育の意義・本質を理解し特別支援学校教員として自覚を形成する「全体目標」を重視して、個別到達目標はあまり細部にこだわらなくてもよいかなと思います。

② 発達障害

発達障害を明確に第三欄に位置づけることは必要だと思います。私の大学は知肢病領域の養成を行っていますが、公開講座でもっとも関心が高く特別支援学校(学級)の教員からのニーズが大きいのが発達障害に関わるものです。

③ 重複障害

第一覧科目で重複障害者等の教育課程上の取扱い等、基礎的制度的側面をおさえ、第三欄科目で教育課程や指導法を学ぶことは、学校教育現場に出てから必ず必要になり役立つことだと思います。

- 個々の教職課程科目のコアカリキュラムについては、それぞれの専門家のWGチームで検討を進めていただければ重要な項目が欠けることなくまとまると思います。

その際、杞憂だとは思いますが、平成 28/29 年の経験から何点か下記にあげさせていただきます。

- ◎ 専門家の先生方はその領域のことを詳細にご承知なので、ややもすると必要な事項が多くなり、到達目標が増える可能性があります。ミニマムエッセンシャルとすることを基本合意しておく必要があると思います。WGへの検討依頼の最初から、目安として一般目標は幾つくらい、到達目標は幾つくらい、15 回授業でこなせる程度、しかも大学独自の内容も盛り込めるように、とお願いするのがよいかと思います。

- 到達目標の難易度、レベルについてもWGメンバーによって相違する場合があります。現場に出る前に「ここまでは最低限身につけておくこと」のミニマムを示すという共通理解が必要でしょう。

- 平成 28/29 年度コアカリは、基本的に知識・理解を担保するという方針で考えました。これから求められる意欲や責任感、コンピテンシーをどう扱うか、議論があるかもしれません。知識理解が本物なら意欲関心が生じるという考え方もあります。

- コアカリを作成するうえで、細かな「書きぶり」、例えば「〇〇を理解している」とか「〇〇できる」とかについても、ある程度揃えた方がよいと思います。最終的にはWG案を親会議で完成させるという手順でいくのがよいでしょう。

- ◎ コアカリについては、今でも大学教員の中では「文部科学省の押しつけ」、「各大学の個性をなくして画一化するもの」という反応があります。作成した側からは、ちゃんとやってくれている大学はそれでけっこうです、あまりに「個性的」で「これは教員免許科目としてはいかがか」というものを是正してもらうために作成したものです、と言いたいのですが。

- しかし、コアカリは実際に大学で活用してもらわないと意味がありません。大学の授業担当教員が理解してくれて、「まあこれは必要な内容です」とご自身の授業に反映してくれないと困りますし、そのための工夫が必要だと思います。